



27 平福百穂

《玉柏》 六曲二双

昭和三年（一九二八）

紙本着色

本紙各一六二・七×三五九・二

昭和の大札に際し、香淳皇后より昭和天皇にお祝いの品として贈られた作品である。玉は美しいもの、気高いものに添える美称、柏の葉は古来より神饌具に用いられ、また葉守の神が宿る神聖なものを意味する。右隻には、その柏葉が青々と茂り、仲睦まじい番のキジバトが描かれる。左隻には、柏樹に向かって豊かな清流が流れ、岩間には若竹が勢いよく天に向かって伸びる。竹は、昭和天皇のお印でもある。若き昭和天皇の前途を祝し、また新しい御代と皇室の繁栄の願いが込められた、吉祥意に満ちた屏風である。

作者の平福百穂（一九三七～一九三三）は、秋田県角館町の出身。日本画家であった父・穂庵（一八四四～九〇）の手ほどきを受けて画家の道へ入り、十七歳で上京して川端玉章の門下となる。その後東京美術学校日本画科選科に編入して学び、文展や「金鈴社」等の美術団体を結成するなど旺盛に活動して画壇の重鎮となった。百穂は、円山四条派の写生を基礎として、その伝統に西洋美術の現実性を取り入れ、自然に対する彼自身の美意識を描画技法に融合して琳派の「たらしこみ」技法を駆使したが、本作は、その表現力や感性が充実した円熟期の代表作である。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzokan